

学校名 いばらきけん茨城県つくば市立豊里学園上郷小学校 しりつとよさとがくえんかみごうしょうがっこう 校長名 つばい坪井 かずひこ一彦

所在地 〒300-2645 茨城県つくば市上郷2499番地

TEL 029-847-2017

FAX 029-847-0259

E-mail kami01@tkb.ed.jp

URL <http://www.tsukuba.ed.jp/~kamigou/>

1. 研究主題

「一人一人が運動の楽しさや喜びを味わい、笑顔に満ち溢れた児童の育成」
一わかる，かかわる，できる，チャレンジする体育学習・体育活動を通して一

2. 研究の期間

平成25年度～平成27年度 3年間

3. 研究の目的

本校では「自己を磨き 夢の実現を目指す児童生徒の育成」という小中一貫の学園教育目標のもと、「児童が主役，笑顔に満ち溢れた楽しい学校」を学校教育目標に掲げ，教育活動を実践している。また，「かんがえて行動できるかしこい子」，「みんなにあいさつやさしい子」，「ごうかくめざしてがんばる子」，「うんどう大好き元気な子」をめざす児童像として指導にあたっている。

本校は，敷地面積が広く，運動できる場が多い。休み時間は元気に外で遊び，体育の時間を楽しみにしている児童も多い。一方で，新体力テストにおける段階別評価のA+Bの割合は県平均を下回り，体育の時間も苦手なことや嫌いなことは避けてしまう傾向がある。

以上のことから，本研究の目的は，わかる，かかわる，できる，チャレンジする体育学習や体育活動を通して，一人一人が運動の楽しさや喜びを味わい，笑顔に満ち溢れた児童の育成を図ることとした。

4. 研究の方法・実践内容

研究の組織として，授業研究部，調査研究部，体力づくり研究部の3つの部会を設置し，研究仮説の検証を行った。以下のような4つの視点から研究を進め実践を積み重ねていけば，「運動の楽しさや喜びを味わえる児童の育成」が具現化するであろうという仮説を立てた。

○運動のポイントやコツがわかったり，活動を工夫したりする。(わかる)

○尋ね合ったり，教え合ったりしてかかわり合いながら活動する。(かかわる)

○できなかったことができるようになる。(できる)

○運動の特性にふれ，すすんで体を動かす。(チャレンジする)

研究の前半期間では，教材研究や研修等を多く実施することで理論的な部分での職員間の共通理解を図った。研究の後半期間では，研究授業や業間運動，学校行事等の実践部分を増やしていった。検証の方法として，授業に関するアンケート調査や学習カードの記述，授業評価の分析等を行った。

(1) 平成25年度の主な取組

①授業研究部

職員・児童に体育の授業を進めていく上での共通理解を図るために，体育授業学習の約束を作成した。また，研究授業や講師を招いての模擬授業の実施等の研修の場を多く設けたり，体育授業サポーターを活用したりして授業の改善を図った。

②調査研究部

3年間にわたる児童への継続的なアンケート調査のための項目作成，体育資料の保管・整理を行った。

③体力づくり研究部

授業以外でも体を動かす機会を設けるために，業間運動の工夫・改善を行った。

(2) 平成26年度の主な取組

①授業研究部

効果的なICT機器の活用(わかる)，発問の工夫や話し合いの時間確保(かかわる)，体育授業サポーターの活用(できる)，他教科との関連(チャレンジする)を図りながら，運動の楽しさや喜びを味わえる児童の育成ができるように授業改善を行った。また，ベースボール型，陸上運動，ハンドボール等の校

内実技研修を行い、指導力の向上を図った。

②調査研究部

校内体育コーナーの設置、アンケート調査や新体力テストの集計を行い、現時点での成果や課題を検証し、次年度への取り組みに生かせるようにした。

③体力づくり研究部

体育の授業以外にも、業間運動でいろいろな運動に親しむことができるように種目を設定した「Kami Go チャレンジ!!」を企画し、また、新体力テストの結果を自分で分析し、家庭でも体力向上に取り組めるように「Kami Go チャレンジ!!家庭版」を実施した。

(3)平成 27 年度の主な取組

①「わかる」ための手立て

学習のねらい、学習の流れ、場の設定やポイントの説明した図を提示することで、一人一人がねらいを意識して授業に取り組めるようにした。授業の最後には、各学年でチェックシートや学習カードを使用して、学習課題やめあてに即して振り返りを行うようにした。

また、授業中の資料提示、動画による技能ポイントの理解、自分の試技を撮影しその場で振り返りをするなど、効果的に ICT 機器を使用することで課題解決のポイントを理解する手助けになるようにした。

②「かかわる」ための手立て

3～5人の少人数のグループによる活動や、異学年の児童と関わる活動を多く設けた。豊学園リトルティーチャー制度を活用して、中学生からも学んだり、補助をしてもらったりできるようにした。また、教師も教えるだけでなく一緒に活動することで、より身近に感じられるようにした。スポーツを専門にして地域で活躍する方をゲストティーチャーで招き、直接教えていただく機会を得られるようにした。

③「できる」ための手立て

自作あるいは既製品を利用した教材・教具を、用途に応じて工夫して用いた。授業では、活動量を確保したり様々な動きを体験したりできるような場の設定を工夫した。また、用具の整備、体育館改修や芝の管理等も先を見通してより使いやすく、活動しやすい場にできるように整備した。外部指導者による専門的、効果的な指導をしていただくことで、児童の

技能向上につながった。

④「チャレンジする」ための手立て

ゲーム、ボール運動の単元では幅広い種目を設定することで、様々な動きを経験できるようにした。また、地域の方を招待して行われる「ありがとう集会」や運動会等では、学習してきたことをふまえて、一人一人が堂々と発表できるような場を設けた。他にも、泳力アップのための特別水泳、校内持久走大会に向けた業間運動、まつりつくば、つくば豊学園スポーツ交流会、つくば市南部小学校陸上記録会に向けた練習等、自分の力を十分に発揮できるように、チャレンジするための練習の場を設定した。

5. 研究の成果

- 学習のめあてや運動のポイント、こつがわかるように資料や ICT 機器を使用したり、示範や発問、振り返りの時間を確保したりすることで、児童が考えて学習していくことにつながった。
- グループ形態の工夫、異学年交流、教師やゲストティーチャーとの交流の中で尋ね合い、教え合う学習をすすめることで、進んで、人とかかわりながら体育学習や体育活動で行えるようになってきた。
- 教材・教具や場の整備・工夫、外部指導者による指導を行うことで、運動に進んで取り組むとともに技能が身に付き、体力を向上させることにもつながった。
- 授業における種目設定や他教科、学校行事、家庭でも幅広く運動に親しむ場を設定することで、運動が好きになり、運動を積極的に行う児童を育成することにつながった。

6. 研究の意義、発展性

学校の運動環境も整い、職員の体育学習に対する意識、児童の取り組みにも大きく変化が現れた。研究を通して培われた力は体力面だけではなく、学び合う力や協働する心を育み、学習面や生活面にも相乗効果として児童の姿に現れた。

生涯にわたって運動に親しみ、体力の向上を目指す「運動が大好きで元気な子」を育成するため、「わかる、かかわる、できる、チャレンジする」体育学習や体育活動を通して、児童に運動の楽しさや喜びを味わわせることができた。運動の楽しさや喜びを味わうことで、運動へのさらなる意欲を高めていくことが考えられる。